



健康な体
誠実な心
豊かな知性

しのめ
東雲

尾張旭市立東中学校
学校だより
令和7年度 第3号

目標は無難なことばかり、無謀なことばかりでもいけません。他者からのアドバイスも大切にしたいですね。

諦める＝あきらかにすること

校長 山下 浩司



6月5日（木）は5・6時間目に第1回進路説明会が開催されました。昨年度から、生徒たちがより具体的に進路先についてイメージをもてるように、進路指導についての概略を説明することに加え、体験入学が多数行われる夏休み前に、どんな学校があるのかということ、実際の学校の方から説明を受けるようにしました。公立高校普通科から長久手高校、同じく公立の専門学科から瀬戸工科高校、そして私立高校から中部大学春日丘高校、最後に各種専門学校から菊武ビジネス専門学校の方々に来ていただきました。

暑い中でしたが、生徒の皆さんはもちろん、保護者の方も、今後の進路や、進路先の情報について、熱心に聞き入る姿がありました。

そこでお話をしたかった内容は次の2点です。生徒には、自分自身の進路について努力することはもちろん、しっかり保護者の方と相談し決めること。保護者の方には、伴走者として、生徒の支援をお願いしました。

さて、これから長い人生、特に自分の進路については、何らかの目標を立て、努力を重ねていくと思いますが、必ずしも思った通りに進むわけではありません。例えば〇〇高校に合格すると目標を立てても、高校にはその年に募集する定員があり、どれだけ努力をしたとしても、思う通りの結果にならない場合もあります。

そんな時、あきらめるという選択も出てくるでしょう。一般的に、この「あきらめる」という言葉について、途中でやめる、断念、ギブアップなど、マイナスイメージで使われることが多く、できる限り避けなければいけないと捉えていると思います。

そこで、もともとあきらめるの語源である漢字「諦」を漢和辞典で調べると、次のように書いてあります。「あきらめる」「あきらかにする」「真理」「いろいろ観察をまとめて、真相をはっきりさせる」などです。そう、目標に向けて自分の実力を十分発揮し、それがどうであったか明らかにすることが大切です。

努力をせずに、目標をどんどん変えてしまうと、ただ「自分はやらない」とか「本気を出せば自分はやれる」といつまでも念が残ってしまい（残念）、次のスタートがしっかりと切れない状態になってしまいます。

特に、今後の自分の進む路を決める進路学習において、自分自身をよく知ること、しっかり努力を出し切って自分に合った道を明らかにすることが大切です。当初立てた目標が叶うか叶わないかということより、自分の好きなこと、今後頑張っていきたいことがしっかりと分かるように取り組んでほしいと思います。自分にとって正しい道を選ぶために諦める（明らかに見極める）ことは、決して間違いではありません。